

出資団体の経営状況(令和4年度決算)

(単位:千円、%)
※令和5年度出資団体評価シートに基づき作成

NO.	団 体 名	指 標	3年度決算	4 年 度 決 算		4年度決算概要
					対前年度増減(率)	
1	(公財)札幌国際プラザ	経常収益	335,561	400,202	64,641 (19.3)	<p>【経常収益・経常費用】 自主事業である留学生交流センターの入居率が向上したことによる利用料金収入増のほか、コンベンション誘致促進助成金の増による補助金増が経常収益増の主な要因。コンベンションの誘致、開催支援に関する支払助成金の増、燃料費高騰による留学生交流センターの光熱水費の増、事業実施の増や人件費の上昇に伴う委託料の増が経常費用の主な増加要因。</p> <p>【流動資産】 エネルギー資源の価格高騰に伴う光熱水費の増加等の理由により、国際プラザが支払いに使える資金を確保し、財政運営の安定を図るため、特定資産の一部を取り崩し、流動資産である現金預金に振り替えたことが主な増加要因。</p>
		当期経常増減額	▲ 7,435	▲ 2,977	4,458 (60.0)	
		当期正味財産増減額	▲ 10,178	▲ 3,023	7,155 (70.3)	
2	(一財)札幌市職員福利厚生会	経常収益	530,984	513,803	▲ 17,181 (▲3.2)	<p>【経常収益・経常費用】 経常収益の減少は、手数料収入の減収、加算料の減免措置及び新型コロナウイルス感染症拡大により交付金交付対象事業が実施できなかったことによる、受取交付金等の減少が主な要因となっている。経常費用の減少は、新型コロナウイルス拡大及び一部制度の変更により事業への申請数が減少したことが主な要因となっている。</p>
		当期経常増減額	5,725	564	▲ 5,161 (▲90.1)	
		当期正味財産増減額	▲ 596	▲ 2,764	▲ 2,168 (▲363.8)	
3	札幌総合情報センター(株)	売上高	2,932,081	2,812,445	▲ 119,636 (▲4.1)	<p>【売上高】 当期売上高は、新規の開発(構築)が減少し、システム運用保守中心の営業になったこと、文部科学省のGIGAスクール構想に伴う通信回線減速対応で札幌市教育ネットワーク運用管理業務が減額されたことなどによって、前年度より減少した。</p> <p>【営業費用】 受託額の減少に伴う委託費の減少、GIGAスクール構想に伴う通信回線減速対応による通信費の減少などによって前年度より減少した。</p> <p>【借入金残高】 借入金は札幌市基幹系情報システム開発において発生したもののだが、開発は既に終了しており、本市が支払うソフトウェア利用料から借入金を返済したことによって前年度よりも減少した。</p>
		営業利益	94,822	84,375	▲ 10,447 (▲11.0)	
		当期純利益	59,689	59,015	▲ 674 (▲1.1)	

4	札幌丘珠空港ビル(株)	売上高	165,810	200,068	34,258 (20.7)	<p>【売上高】 令和4年度は航空需要が回復し13年ぶりに30万人をこえたところであり、それに伴う売店売上等が増加に加え、新型コロナウイルスの影響により減免していた入居者の家賃等の見直しにより、対前年度比20.7%増となった。</p> <p>【営業費用・営業利益】 航空機の運航時間延長に伴う開館時間の延長、乗降客数の増加、エネルギー価格の高騰等の影響により、水道光熱水費が増加したが、経費節減に努めた結果、営業費用が対前年度比0.5%増加で抑えられ、3年ぶりに営業利益が黒字となった。</p> <p>【営業外収益・当期純利益】 札幌市からの補助金等の営業外収益が発生しなかったため、令和3年度に比べ営業外収益は減少しているが、純利益は対前年度比759.8%増の黒字となった。</p>
		営業利益	▲ 2,974	15,008	17,982 (604.6)	
		当期純利益	1,471	11,176	9,705 (659.8)	
5	(公財)パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会	経常収益	261,498	453,803	192,305 (73.5)	<p>【経常収益・経常費用】 新型コロナウイルス感染症の影響が軽減したことにより、事業規模を大幅に縮小した前年度に比べて一定程度事業規模を回復させたことによるもの。</p>
		当期経常増減額	▲ 5,231	35,249	40,480 (773.8)	
		当期正味財産増減額	▲ 5,252	35,229	40,481 (770.8)	
6	(公財)札幌市芸術文化財団	経常収益	3,854,389	3,900,549	46,160 (1.2)	<p>【経常収益】 経常収益(a)は前年度比4,616万円余の増加となった。受取指定管理費は昨年度から引き続き施設キャンセルの全額返金に加え、今年度は光熱費高騰についても補填対象となり、1億789万円余を札幌市より追加で受けたことが要因。併せて、利用料金収益は前年度比で1億1,052万円余の増加、また主催公演においても集客が好調だったことから、入場料収益が5,378万円余の増加となった。</p> <p>【経常費用】 経常費用(b)は前年度比2億8,995万円余の増加となった。燃料費高騰により光熱水費は前年度比1億0,617万円余の増加、主催公演がコロナ禍以前の状況に戻りつつあることから諸謝金や委託費については、合わせて1億6,058万円余の増加となっている。</p> <p>【正味財産】 上記の結果、正味財産(n)は6,807万円余の増加となった。いわゆる「剰余金」であるが、「公益のために集めた財産は公益目的事業に充てる」という公益法人制度の原則に則り、令和5年度予算へ充当を行った。</p>
		当期経常増減額	320,302	76,504	▲ 243,798 (▲76.1)	
		当期正味財産増減額	307,889	68,077	▲ 239,812 (▲77.9)	

7	(一財)札幌市スポーツ協会	経常収益	3,998,801	4,256,330	257,529 (6.4)	<p>【当期経常増減額】</p> <p>令和4年度の経常収益については、新型コロナウイルス感染症拡大防止による施設の休館がなく、1年を通して施設の開放や自主事業を実施できたことから、受講料収益や利用料収益が前年に比べ大きく増加し、経常収益全体でも前年比257,529千円の増加となった。また経常費用は、前年度の臨時休館がなく今年度は通常開放となり管理経費が増えたことと電気・ガスの光熱費が大きく増加したため、前年比338,047千円の増加となり、当期正味財産増減額は前年比39,868千円の減少となった。</p> <p>【資産・流動負債】</p> <p>資産は、流動資産が前年比112,311千円減少しているが、主な要因として電気・ガスの光熱費の異常な高騰に係る支払いにおいて現金預金が大きく減少したためである。流動負債は、補助金や委託料の返金に係る未払金や未払法人税等などが減少したため前年比98,671千円の減少となった。</p> <p>【正味財産】</p> <p>正味財産は、負債の減少よりも資産の減少の方が大きかったため44,536千円の減少となった。</p>
		当期経常増減額	49,501	▲ 31,017	▲ 80,518 (▲162.7)	
		当期正味財産増減額	8,331	▲ 31,537	▲ 39,868 (▲478.5)	
8	(株)札幌ドーム	売上高	3,185,791	2,976,344	▲ 209,447 (▲6.6)	<p>【売上高】</p> <p>イベント利用日数は増加したものの、前期は東京2020オリンピック競技大会の長期利用があったことから貸館事業では減収となった。また、前期からは入場者数が増えたことなどの要因から商業及び駐車場事業、観光事業は増収となった一方で、チケット事業、広告事業は減収となった。</p> <p>【営業利益・当期純利益】</p> <p>営業利益は70百万円（前期比2億7百万円減）、経常利益は1億93百万円（前期比1億96百万円減）、当期純利益は1億20百万円（前期比1億4百万円減）の減収減益となったものの、2期連続の黒字を達成することができた。</p>
		営業利益	277,552	70,375	▲ 207,177 (▲74.6)	
		当期純利益	224,535	120,496	▲ 104,039 (▲46.3)	
9	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会	経常収益	7,350,808	7,871,971	521,163 (7.1)	<p>【経常収益】</p> <p>主に児童会館及びミニ児童会館において、放課後児童クラブに従事する職員に対する処遇改善、光熱水費の高騰に係る契約額の増額改定、また、コロナ禍による施設利用自粛ムードが和らいだことによる施設利用の回復等の要因により、前年度比で521,163千円増加した。</p> <p>【人件費】</p> <p>職員給与のベースアップ及び退職金支給職位の拡大等の処遇改善に伴い、人件費が153,040千円増加した。</p> <p>【固定資産】</p> <p>第5期指定管理期間に向けて、社会情勢の変化によって物価が高騰し、施設維持や物品調達に係る諸経費が大幅に変動することを見込む費用として、また、業務の効率化や省力化等を目的とした業務のデジタル化に係る各種システム保守費用として「特定費用準備資金」を2件合計118,000千円積み立てたことにより、固定資産が前年度比で121,868千円増加した。</p>
		当期経常増減額	146,760	166,249	19,489 (13.3)	
		当期正味財産増減額	208,722	170,005	▲ 38,717 (▲18.5)	

10	(公財)札幌市中小企業共済センター	経常収益	6,041,885	6,050,318	8,433 (0.1)	<p>【経常収益】 期末会員数が前年度より629名純増したことにより、受入退職掛金は7,993千円、受取福利会費は3,227千円の増収となった。また、退職積立金の運用委託生命保険会社各社の決算の結果、特定資産の運用益は、前年より1,434千円減の460,584千円となった。これらにより、経常収益の合計は、前年度より8,434千円増の6,050,318千円となった。</p> <p>【経常費用】 経常費用増加の主な要因は、福利共済事業の利用者数がコロナ禍前の水準に戻りつつあり、前年より約67,000人増となったことから支払利用助成金が29,604千円増、また、慶弔金贈呈事業の一部（傷病、義親死亡）について支給要件を緩和したことにより支払慶弔金が33,515千円増となったためである。これらにより、経常費用の合計は前年度より55,472千円増の6,086,524千円となった。</p>
		当期経常増減額	10,833	▲ 36,206	▲ 47,039 (▲434.2)	
		当期正味財産増減額	10,833	▲ 36,286	▲ 47,119 (▲435.0)	
11	(一財)さっぽろ産業振興財団	経常収益	829,798	918,090	88,292 (10.6)	<p>【経常収益・経常費用】 前年度比で経常収益は増加しているが、市からの補助金事業の拡大によるもので損益への影響はなく、経常増減額は前年度並みの着地となった。管理費、人件費は前年度比で圧縮しており、効率的な経営に努めている。財務面についても大きな変動はなかった。</p>
		当期経常増減額	15,899	14,885	▲ 1,014 (▲6.4)	
		当期正味財産増減額	▲ 25,975	12,938	38,913 (149.8)	
12	(株)札幌都市開発公社	売上高	1,781,404	1,985,917	204,513 (11.5)	<p>【売上高】 売上高は、空きテナントの解消により賃貸料収入が前年比5.8%増、中心部への車利用による人流の増加により駐車場収入は前年比18.3%増となり、全体で11.5%増となった。</p> <p>【営業費用・当期純利益】 費用面については、道路占用料の増加やエネルギー価格高騰による光熱費の大幅増があったものの、設備更新費用の抑制等により、営業費用の増を前年比5.6%に留めることができたため、当期純利益は約7,500万円増となった。</p>
		営業利益	25,151	130,961	105,810 (420.7)	
		当期純利益	37,815	113,172	75,357 (199.3)	

13	(株)札幌花き地方卸売市場	売上高	122,549	126,393	3,844 (3.1)	【売上高】 R4年度は、当初見込みより取扱金額が増えたことにより、売上高割使用料および精算業務収入が増額となったことによる増
		営業利益	▲ 8,200	2,091	10,291 (125.5)	【営業費用】 R4年度は施設大規模修繕工事がなかったことなどによる減
		当期純利益	▲ 6,538	2,844	9,382 (143.5)	【流動資産・流動負債】 令和4年度3月分精算代金の一部が年度内支払となったことにより、精算用普通預金が減少し、対応する精算代金預り金も減少したことによる減
14	(一財)札幌産業流通振興協会	経常収益	156,459	195,630	39,171 (25.0)	【経常収益】 催事件数は令和3年度の81件より19件増え、年間で100件となり新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にあり、「展示場事業収益」は令和3年度と比較して約3,246万円増の1億6,511万円余となり、会議室貸し出しなどの「施設賃貸事業収益」についても、使用率の増加に伴い約467万円の増となった。
		当期経常増減額	▲ 110,623	▲ 63,424	47,199 (42.7)	【経常費用】 令和4年度は大規模修繕がなかったこと、減価償却が終了した設備があったことにより経常費用(b)は減少となった。
		当期正味財産増減額	▲ 110,623	▲ 63,424	47,199 (42.7)	【当期正味財産増減額】 令和4年度は、令和3年度と比較して経常収益で39,171千円増、経常費用で8,028千円減となったことから当期経常増減額は、昨年の▲110,623千円から47,199千円の収支が改善され▲63,424千円となった。
15	(一財)札幌勤労者職業福祉センター	経常収益	653,618	941,356	287,738 (44.0)	【経常収益】 ワクチン接種会場開設に伴う会議・研修の利用や、新型コロナウイルス感染症対策に関する雇用調整助成金等の受給、熱源設備や空調設備等の改修に伴う補助金の受給等により、経常収益は前年比287,738千円の収入増となった。
		当期経常増減額	81,924	320,261	238,337 (290.9)	【当期正味財産増減額】 上記収入増のほか、経費節減等に取り組んだ結果、当期正味財産増減額は47,023千円の黒字となった。
		当期正味財産増減額	77,428	47,023	▲ 30,405 (▲39.3)	【借入金残高】 決算により収入増となったものの、期中は新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少していたことや、原油価格や物価・光熱費の高騰等に伴う経費の増加などにより、収支見通しが困難であったことから、借入金の繰上償還は未実施となった。
16	(株)札幌振興公社	売上高	2,125,659	2,780,836	655,177 (30.8)	【売上高・営業費用】 下期にかけて新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着きを見せ始め、観光事業の来場者数が大幅に回復。その結果、前年と比較し売上が6億5,500万円程の増収する結果となった。
		営業利益	▲ 361,549	15,042	376,591 (104.2)	【営業利益・営業外収益・当期純利益】 上記の要因により、営業利益についても前年の3億6千万円程の赤字から1,500万円程の黒字化をするなど業況は好調に推移した1年となった。
		当期純利益	▲ 288,656	32,449	321,105 (111.2)	【資産・負債】 資産科目については固定資産の減価償却が進んだことなどにより、固定資産が減少した。負債科目については北8西1再開発事業のつなぎ融資(4億2,000万円)により流動負債が増加、固定負債については各種返済が進んだことにより減少する結果となった。

17	(株)札幌リゾート開発公社	売上高	973,951	1,289,175	315,224 (32.4)	<p>【売上高】 新型コロナウイルス感染症による行動制限や外国人観光客の入国制限の緩和などにより旅行需要の回復が大きく影響している。また、主たる事業であるスキー場は、札幌国際スキー場、Fu's (藤野事業) 共に、インバウンドや修学旅行、スキー学習などの入込が回復した。また、ていねプールが3年ぶりに営業再開したことで売上が大きく伸びた。</p> <p>【営業利益・当期純利益】 営業利益は136,737千円 (前年度25,487千円の営業損失) と大幅に改善した。純利益も146,180千円と前期の赤字から一転し、大幅な黒字となった。</p> <p>【資産・負債・借入金残高】 資産 (h) の増加は現預金が大幅に増加した。負債 (k, p) は借入金返済を滞りなく行った結果減少した。</p>
		営業利益	▲ 25,487	136,737	162,224 (636.5)	
		当期純利益	▲ 18,832	146,180	165,012 (876.2)	
18	(一財)札幌市環境事業公社	経常収益	7,238,624	7,550,261	311,637 (4.3)	<p>【当期経常増減額・当期正味財産増減額】 経常収益 (a) については、事業系ごみ収集運搬事業におけるごみ収集量増により、前年比311百万円余増加した。 一方、経常費用 (b) については、駒岡資源選別センター外壁改修に起因する修繕費の増加や事業系ごみ収集運搬事業におけるごみ収集量増に起因する処分料の増加等により、前年比416百万円余増加した。</p> <p>以上の結果、当期経常増減額 (e) は、前年比105百万円余減の285百万円余、これに当期経常外増減額及び法人税等を差し引きした当期一般正味財産額 (f) は、189百万円余となった。</p> <p>【資産】 流動資産 (h) は、固定資産 (i) が一部資産の除却や減価償却費計上等により、前年比95百万円余減少したものの、当期一般正味財産増減額 (e) が285百万円余と良好な決算だったこと等により、前年比313百万円余増加、また資産 (g) は218百万円余増加した。</p> <p>【負債】 流動負債 (l) は、事業系ごみ収集運搬事業におけるごみ量増に伴う代行料や処分料に係る未払金の増加等に起因し、前年比20百万円余増加、また固定負債 (m) は、退職給付引当金の増加等に起因し、前年比8百万円余増加したこと</p>
		当期経常増減額	391,089	285,778	▲ 105,311 (▲26.9)	
		当期正味財産増減額	365,454	189,831	▲ 175,623 (▲48.1)	

19	(株)札幌エネルギー供給公社	売上高	1,001,864	782,644	▲ 219,220 (▲21.9)	<p>【営業利益】 前期温熱売上の49.3%を占めた都心北融雪槽が半分以下の稼働、大口顧客が9月末で一時休業、天候により売上全体で前期比▲21.9%となった。一方費用では、受変電設備の撤去費用等や世界的なエネルギー価格高騰の影響を受けたものの、冷温熱売上減少による変動費の減少により、営業費用全体では前期比▲1.3%となったことで、営業利益は前期比▲208百万円減の▲27百万円となった。</p> <p>【資産】 8.1向け導管工事・西2丁目線導管移設工事に伴う固定資産が増加し、売上減少による現預金・売掛金の減少により流動資産が減少した。</p> <p>【負債】 流動負債では買掛金・未払法人税等により減少し、固定負債では新規借入により増加した。</p>
		営業利益	181,048	▲ 27,899	▲ 208,947 (▲115.4)	
		当期純利益	116,281	46,068	▲ 70,213 (▲60.4)	
20	(株)北海道熱供給公社	売上高	5,004,685	6,294,640	1,289,955 (25.8)	<p>【売上高】 LNG価格高騰に伴う都心地域燃料調整単価の影響という増収要因により、熱供給事業営業収益は前期比1,147,058千円(29.8%)増加の4,988,350千円、電力事業や建設事業を含む熱供給事業外営業収益は、北海道瓦斯株式会社から新たに受託した新さっぽろエネルギーセンター運転監視・点検保守業務等により、前期比142,896千円(12.2%)増加の1,306,289千円となり、営業収益の合計は、前期比1,289,954千円(25.7%)増加の6,294,640千円であった。</p> <p>【営業費用】 熱の販売量増加による燃料使用量の増加、LNG価格高騰等の影響などにより燃料費が大きく増加し、さらに熱製造に係る電力料などの変動費も増加した影響等から、営業費用合計は前期比1,321,682千円(27.2%)増加の6,172,510千円となった。</p> <p>【資産・負債】 資産：固定資産…製造設備・供給設備の新規取得による増、流動資産…主に売掛金の増(昨年度との燃料費調整単価変動による) 負債：流動負債…関係会社短期債務の増、設備資金の北ガスグループCMS</p>
		営業利益	153,858	122,130	▲ 31,728 (▲20.6)	
		当期純利益	146,748	143,933	▲ 2,815 (▲1.9)	
21	(公財)札幌市公園緑化協会	経常収益	1,820,162	1,888,148	67,986 (3.7)	<p>【経常収益】 新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、前年度比較では、利用料金収益や自主事業の収益が大幅に増額したものの、新型コロナウイルス流行以前の収益には達しなかった。</p> <p>【経常費用】 世界的な物価高の影響(光熱水費等)や最低賃金の引上げに伴い費用が増加した。また、維持管理における費用が増加したことにより年度末の未払金が増加したことで負債の増加につながっている。</p> <p>【資産】 収益の増加に伴う年度末の預金残高が増加したことと、札幌市都市緑化基金への多額の寄付(補助金)が主な要因である。</p>
		当期経常増減額	▲ 747	3,115	3,862 (517.0)	
		当期正味財産増減額	▲ 4,587	▲ 4,296	291 (6.3)	

22	札幌市森林組合	経常収益	76,401	71,200	▲ 5,201 (▲6.8)	<p>【経常収益】 経常収益は、本市からの受託事業の減少等により、前年比5,201千円減少した。</p> <p>【固定資産】 有形固定資産が減少し、流動資産が増加した。</p> <p>【当期正味財産増減額】 当期正味財産増減額は1,704千円の減額となった。</p>
		当期経常増減額	2,097	616	▲ 1,481 (▲70.6)	
		当期正味財産増減額	1,969	265	▲ 1,704 (▲86.5)	
23	(一財)札幌市下水道公社	経常収益	2,934,514	2,605,496	▲ 329,018 (▲11.2)	<p>【経常収益】 経常収益は、下水汚泥処理事業収益が34,416千円の増となったものの、道路再生資材販売事業収益が353,306千円の減、建設発生土再生事業収益が事業終了により12,320千円の減となったこと等により前年比329,018千円の減となった。</p> <p>【経常費用】 経常費用は修繕費が60,869千円の増となったものの、道路再生資材購入費が347,194千円の減、請負費が23,520千円の減となったこと等により前年比302,033千円の減となった。</p> <p>【資産・負債】 資産は流動資産の現金預金や売掛金の減等により109,421千円の減となった。また、負債は流動負債の未払金の減等により116,794千円の減となった。</p>
		当期経常増減額	40,973	13,988	▲ 26,985 (▲65.9)	
		当期正味財産増減額	26,295	7,373	▲ 18,922 (▲72.0)	
24	(株)札幌副都心開発公社	売上高	3,749,168	4,039,529	290,361 (7.7)	<p>【売上高・営業費用・当期純利益】 収入面ではSC事業をはじめ、水族館事業、ホテル事業の各部門において増収、支出面では売上原価が電気料金の値上げや施設修繕工事費等により増加し、営業利益では増益となったものの、法人税負担の増加等により、当期純利益は減少し、増収減益決算となった。</p> <p>【資産・負債】 有形固定資産の償却や借入金の返済が進んだ一方で、年度末竣工の工事額の未払金が増加したことに対する支払いに備えた現金預金が増加したことで、全体として増加している。</p>
		営業利益	186,761	215,134	28,373 (15.2)	
		当期純利益	160,297	120,279	▲ 40,018 (▲25.0)	
25	(一財)札幌市住宅管理公社	経常収益	5,213,612	5,701,370	487,758 (9.4)	<p>【経常収益・経常費用】 施設保全事業・市営住宅管理事業の委託額増加により、経常収益及び費用が増加した。</p> <p>【流動資産・流動負債】 施設保全事業・市営住宅管理事業の未払金(精算返還金・未払工事費等)増加により、流動資産及び流動負債が増加した。</p>
		当期経常増減額	29,704	33,652	3,948 (13.3)	
		当期正味財産増減額	29,629	32,221	2,592 (8.7)	

26	(一財)札幌市交通事業振興公社	経常収益	5,380,981	5,789,671	408,690 (7.6)	<p>【経常収益】 軌道運送事業における乗車料収入として、路面電車運賃無料デーに係る事業補助金収益を含み約2億8,400万円増収したため。 (R3年度乗車料収入1,138,301千円、R4年度乗車料収入1,423,182千円)</p> <p>【経常費用】 札幌市に支払う施設使用料の増加及び電気料金が増加したため。 (R3年度施設使用料449,446千円、R4年度施設使用料737,933千円)</p>
		当期経常増減額	28,558	▲ 6,005	▲ 34,563 (▲121.0)	
		当期正味財産増減額	▲ 1,387	13,636	15,023 (1,083.1)	
27	(一財)さっぽろ水道サービス協会	経常収益	1,625,679	1,690,553	64,874 (4.0)	<p>【経常収益】 水道記念館において、前年まではコロナ禍による臨時休館を余儀なくされていたが、令和4年度は、通常どおりの開館日数を確保し、水道記念館管理運営業務に係る受託事業収入が増収となったこと、また、労務単価の上昇に伴い、受託業務全般の契約額が上昇したことなどにより、受託事業収益が増収となり、経常収益が令和3年度比で65百万円の増収となった。</p> <p>【経常費用】 経常費用のうち人件費については、人材の確保・育成を強化するため、総合職である第2種職員を増員させたこと、また、積極的に有期雇用職員から正職員への転換を図ったこと等により、令和3年度比で30百万円の増額となった。</p> <p>【流動資産】 資産のうち、流動資産については、委託契約時における差入保証金の払い戻し(14百万円)により、固定資産から流動資産(預金)へ資金移動したこと、また、正味財産の増加に伴い、令和3年度比で72百万円の増額となった。</p>
		当期経常増減額	73,826	76,178	2,352 (3.2)	
		当期正味財産増減額	44,648	46,273	1,625 (3.6)	
28	(公財)札幌市防災協会	経常収益	171,957	176,879	4,922 (2.9)	<p>【経常収益】 札幌市民防災センター一部展示施設リニューアル工事に係る休館 (R4.9.1～R5.3.19) のため、当該業務の市委託料は減となった。一方、防火管理者等講習、応急手当講習は、感染予防と社会経済活動を維持しながら所定回数の講習を開催し、また、受講者の増加等もあり経常収益は増となった。</p> <p>【経常費用】 職員の退職により、人件費が減少し、経常費用が減となった。</p>
		当期経常増減額	▲ 2,953	5,989	8,942 (302.8)	
		当期正味財産増減額	2,831	5,161	2,330 (82.3)	

29	(公財)札幌市生涯学習振興財団	経常収益	813,686	887,011	73,325 (9.0)	<p>【当期経常増減額】 新型コロナウイルス感染症の影響緩和により、生涯学習センターの施設利用料や講座受講料などの収入が大きく増加した結果、経常収益は前年比で73,325千円増加。一方で、従前の規模での事業再開による人件費や委託費の増加、光熱費の高騰などにより、経常費用は前年比で88,921千円増加。その結果、当期経常増減額は15,596千円減少した。</p> <p>【資産】 未収入金の増加に伴い、流動資産は前年比で7,299千円増加。資産全体で7,984千円増加した。</p> <p>【負債】 未払金が減少したことにより、流動負債が前年比で16,030千円減少。退職給付引当金の増額により、固定負債は前年比で889千円増加。その結果、負債全体で15,141千円減少した。</p>
		当期経常増減額	39,350	23,754	▲ 15,596 (▲39.6)	
		当期正味財産増減額	50,896	23,125	▲ 27,771 (▲54.6)	
30	(公財)札幌市学校給食会	経常収益	3,976,842	4,207,645	230,803 (5.8)	<p>【経常収益・経常費用】 経常収益及び経常費用の対前年比増の主な要因は、諸物価の高騰により、給食物資調達収益・費用（食材購入費）が増加したことによる。</p> <p>【流動資産・流動負債】 流動資産及び流動負債の対前年比増の主な要因は、令和3年度は新型コロナウイルス感染症による学級閉鎖等により給食物資の調達量が一時的に減少していたものの、令和4年度は前年度と比較して給食物資の調達量が増加した結果、年度末時点において一時的に給食物資未収金及び給食物資未払金が増加したことによる。</p>
		当期経常増減額	1,700	▲ 1,993	▲ 3,693 (▲217.2)	
		当期正味財産増減額	2,436	▲ 1,057	▲ 3,493 (▲143.4)	